

「おはなしのくに」を活用した、音読名人を目指す授業作り

千葉市立幕張東小学校 教諭 和泉 貴裕

小学校1年生 国語
おはなしのくに

第16回「おおきなかぶ」…ロシアに伝わる「おおきなかぶ」の話を、一流の語り手が表情豊かに語る「読み聞かせ」の番組。楽しみながら聞き、どのように読むと気持ちを込めた音読ができるのかを考える。

【授業デザイン】

1年国語「おおきなかぶ」(教育出版)

1 音読と課題の確認

- ・各自で音読する。
- ・「どのように音読すれば気持ちや様子が伝わるか」を考える。

2 番組視聴(10分)

おはなしのくに第16回
「おおきなかぶ」

3 真似したいところを
発表

- ・掛け声のところ
- ・繰り返しがあるところ
- ・かぶが抜けたところ

4 部分視聴と音読

①真似したいと思ったところを
部分視聴する。

②どのように読んでいるかを
確認する。

③全体で同じように音読する。

④みんなの前で発表する。

*①～③の繰り返し



5 各自で音読練習

- ・声の大きさや速さに気を付けて読む。

6 ふりかえり

【授業の概要】

国語の教科書(教育出版)で扱っている「おおきなかぶ」の単元で、気持ちを込めて音読するためにはどう表現したらよいかを考えた。本番組での語り手を務めているプロの俳優の読み聞かせが、音読が上手になりたいという児童の願いと合致した。授業を通して、声の大きさや速さの工夫に気付くことができ、学級での音読発表会に生かすことができた。

【今回の実践における番組効果】

2. 新鮮な経験を与えて、豊かに想像力や学習への興味を育てる。
4. 児童の思考を広げ、学習への意欲を向上させる。
6. 課題解決のための手がかりを与える。

【おはなしのくに番組活用のポイント】

①一流の語り手による読み聞かせ

読み聞かせでは、プロの俳優が情感たっぷりに語りかけてくるので、児童は自然と物語に引き込まれていく。お話を楽しむと同時に、語り手に憧れの気持ちを抱き、音読が上手になりたいと思う気持ちを高めた。

②同時に見られるテロップ

番組では、読み聞かせにテロップを表示させることができる。文を追いながら語り手の口調を確認することで、どのように声を出しているのかを詳しく聞くことができ、音読の仕方を真似ることができた。

③動作化・劇化への興味付けとなる演技

番組の語り手は、読み聞かせを「語る」だけではなく、動作を付けて「演じて」いる。番組を視聴することで、自分もやってみたいという思いをもち、音読発表会の際には、動きながら音読している児童がいた。

【成果と課題】

番組を視聴したことで、気持ちや様子が伝わるための音読の仕方考えることができた。お話の主人公がどのような気持ちで言葉を発しているかは、本授業の実践前に読み取っている。しかしながら、それを音声化した時に、どのように読めば相手に伝わるのかというのは、技術の問題もあるために考えるのが難しい。番組の語り手がどのように言葉を発しているかを繰り返し視聴することで、気持ちや様子が伝わるような音読の仕方のポイントを確認することができた。

本実践では、国語の教科書単元と関わりがある回を使ったのだが、番組を継続視聴することで、さらに音読への興味が湧いてくると考える。そのためには、教科の中だけで考えるのではなく、朝学習などを利用し、読み聞かせとして継続視聴していくことが望ましいであろう。